

第2章 いじめの未然防止

5 「学校行事」「児童会活動」を通して（小学校編）

1 自己肯定感を高める縦割り班活動や異学年交流

各校においては様々な縦割り班活動や異学年交流が教育課程に位置付けられている。それらの中心的な目的は児童の人間関係形成やリーダーとなる上学年児童の問題解決力の育成である。活動をより効果的なものにするためには、事前事後の活動の充実が不可欠である。


【事前活動のポイント】

- 児童一人一人が明確なめあてをもつこと（主活動を見通したもの）
- めあてを達成するために、どのようなスキルを身に付けることが必要か分かること（下級生への関わり方、話の聴き方、指示の伝え方、対立の解消など）
- スキルの習得のため、練習をしたり、互いに助言や称賛を伝え合ったりすること

【事後活動のポイント】

- 個々の振り返りだけではなく、学級・学年集団についても振り返ること [自己評価]
- 他学年や保護者など、他者からの感謝の言葉（手紙）や評価を用いること [他者評価]
- 振り返りや成長を便りで保護者に発信したり、昼の放送等で全校に伝えたりすること [発信]

活動例(1) 縦割り班活動 ～ みんなでちぎり絵（児1、図工2、児1）～

	学習活動	留意点等
事前活動	【6年生】 <ul style="list-style-type: none"> ・班のめあてを考える。 ・自分のめあてを考え、めあてに対する自分の課題を書き出す。 ・活動を見通し、自分たちが困る場面を想定して解決策を話し合う。 ・伝え方、聴き方のトレーニングを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが低中学年だったころを思い出させる。（憧れる6年生の姿を可視化する） ○話合いや指示を出すとき等、どのようなことに気を付けるとよいか考えさせる。 ○モデルになる児童だけでなく、一人一人のよさを丁寧に見取り、称賛する。 ○トレーニングとリハーサルでの気づきを交流させ、一人一人のよさにも焦点を当てる。
実践活動	<ol style="list-style-type: none"> ①活動の流れや休憩タイムについてリーダーが説明する。 ②リーダーが中心となり、役割や作業分担を話し合う。 ③ちぎり絵作りに取り組む。 ④完成したグループから絵を中心に、グループ写真を撮る。 ⑤廊下に作品を掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高学年が自信をもって進行できるよう声掛けし励ます。 ○話の聴き方がよい児童をほめる。 
事後活動	<ul style="list-style-type: none"> ・低中学年は活動の振り返りと高学年にお礼の手紙を書く。 ・6年生は活動の振り返りや手紙もらったの感想、次の活動への意気込み等を書く。 ・気づきや感想を学級・学年で交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の様子や振り返り文、手紙等を学校だよりや学年だよりで地域や保護者に伝える。 ○記述したものやもらった手紙などはファイルに綴る。（ポートフォリオ） ○高学年のよさを教師間で伝え合い、共有し、学校全体で称賛していく。

2 全校体制によるいじめを許さない心の醸成 ～いじめ見逃しゼロスクール集会を中心に

6月と10月の『いじめ見逃しゼロ強調月間』における「いじめ見逃しゼロスクール」では、児童会が中心となり、全校での集会、学級の代表を集めての代表委員会、各学級での話し合いなどが行われている。



「さべつをしないでみんなで仲よく遊ぶ」「ふわふわことばをつかう」「じぶんがされていやなことをしない、いわない」等のスローガンを話し合い、発表したり、掲示物を作ったりする活動や「ありがとうの花活動」「いいところさがし」など、各学級で取り組んだりする活動も多く行われている。

この取組の効果をさらに高めるためには、次のような取組が挙げられる。

- ①地域や保護者、近隣校園とともに行うスローガンづくり（小中連携、幼保小連携を含む）
- ②学級・学年ごとの発達段階に応じた「いじめ見逃しゼロ」の実践と実践紹介

既存の学校行事や児童会活動、日々の授業、そして幼保小連携や小中連携活動等とどのように関連付けていくのかについて、学校全体で合意形成を図ることが重要である。さらには、それぞれの小学校が、「いじめ見逃しゼロスクール」を取組の柱とした教育活動をP D C Aサイクルで見直していくことも重要である。

活動例(2) いじめ見逃しゼロスクール集会

	学習活動	留意点等
事前活動	①運営委員会が集会案内や各学級にスローガンづくりの依頼をする。 ②各学級で「いじめ見逃しゼロ」や学級の状態について話し合う。 ③スローガンを決め、学級ごとに活動に取り組み、成果と課題をまとめる。	時数；児童会活動① ○学校・学年だよりなどで地域・保護者に集会への参加を呼びかける。 ○中学校や幼稚園、保育園と連携を図る。
実践活動	①縦割り班遊び ②各学年からのスローガン発表 ③いじめ防止を訴える劇 ④幼保園、保護者からの感想発表 ⑤「〇〇小、なかよし宣言」	時数；児童会活動① ○委員会の児童が会の進行を務める。 ○縦割り班遊びの中で交流すること、共に学ぶことの楽しさを学ばせる。 ○劇を行う場合には内容や演じる児童の指導に、細心の注意を払う。
事後活動	①事前活動、実践活動の感想を書く。 ②提示された学年や発達段階に応じた類似例を自分ごとに置き換えてみる。 ③解決方法を話し合ったり、練習したりする。 ④再度、学級の取組を話し合う。 ⑤互いのよさや努力を認め、いじめ見逃しゼロのめあてを立てる。	時数；児童会活動①、必要に応じて+α ○各学年に応じた日常事例や紙芝居を用意し、学級や学年で学習を深める。 ○振り返りや感想を昼放送等で全校で共有したり、学校・学年だよりなどで地域、保護者に伝えたりする。 ○スローガンやめあての振り返り活動を、定期的に設定する。

○事前活動では、生活を見直し、課題をつかませ、改善の見通しをもたせ、課題解決に向かう力を醸成する。

○実践活動では、縦割り班遊びを充実させ、異年齢で交流する楽しさや役割遂行の大切さを実感させる。

○事後活動では、学級、学年全体で振り返り、互いのよさや努力を認め合うこと、課題を踏まえ、新たに歩み出す意欲をもつことができるように、場や内容を工夫する。